NEWS RELEASE

2026年8月5日



2026 SUPER GT 第4戦「FUJI GT 300km RACE」(8/1-2)

富士スピードウェイ(1周4.563km)

入場者数：予選22,300名、決勝34,100名　合計56,400名

8月2日（日）SUPER GT第4戦「FUJI GT 300km RACE」の決勝が行われ、スタート直前の降雨でセーフティカー(SC)スタートとなり、解除後の他車の激しいクラッシュによる赤旗中断という衝撃の幕開けとなった中、スタート担当の関口が、序盤は虎視眈々とチャンスを伺う走り。好ペースでスティント後半にはペースアップし、前とのギャップを詰めていった。32周を終えサッシャと交代。ピットインを遅らせたオーバーカット、短いピット作業、そして安定したペースで前とのギャップを削り、終盤は4位から連なる集団の中で前を追い立てる展開へ持ち込む奮闘を見せた。ワンパックで連なる一進一退の攻防であったが、あと一歩というところでチェッカー。結果、スタートから5つ順位を上げる8位フィニッシュで貴重なポイントを獲得した。ドライバーポイントは3点（計17点）を獲得、チームポイントは6点（計26点）を獲得し、ともにランキング5位となった。次戦は8月22日（土）・23日（日）に鈴鹿サーキットにて開催される。

■事前情報



開幕から2戦を終え、両レースとも、あと一歩のところで表彰台という戦いぶりを見せ、現在チームランキング5位につけているDENSO KOBELCO SARD GR Supra。第3戦セパンが延期となり、第4戦の舞台は再び富士スピードウェイでの開催。8月1日（土）午前に公式練習、午後にノックアウト方式（Q1、Q2）の公式予選、2日（日）決勝は13時30分スタートの300km（66周：約2時間）で争われ、ドライバー交代を伴うピットストップは1回が義務付け。サクセスウェイトは現獲得ポイントの倍となる28kgを搭載する。重量増による富士でのタイムの落ち込みは、28kgだと約0.4秒ほど。タイヤの持ち込みセット数は、ドライ4/ウェット6セット（うち1セットはヘビーウェット対応用）で決勝スタートまで使えるドライのマーキングは4セットとなる。

夏休みとあってサーキットへキャンプも兼ね、多くの子供達の来場が予想され、近年は複合レジャー施設としても充実してきている富士スピードウェイ。西ゲート付近は複合商業エリアとしてオープンし、来場者数増が見込まれる。通常であればシリーズ前半の締めくくりとなる第4戦であるが、3戦目となる本大会。セパン戦の延期によりインターバルが3ヶ月もあったため、各陣営ともクルマの熟成やチームのポテンシャルアップの機会を得ており、フタを開けてみないとパワーバランスが不明である。DENSO KOBELCO SARD GR Supraもこれまでのデータを深く解析して臨む、この第4戦で大量ポイントを獲得できればランキングリーダーに十分に近づくことは可能で、後半戦に向けて逆襲のターニングポイントとしたいところ。猛暑が続いて雷雨が訪れやすい不安定な天候や運も含め波乱が起きやすく、レース戦略と瞬時の判断、チームの総合力があらためて試される300kmで戦う第4戦富士。脇阪寿一監督のもとチーム一丸となって幾度挫折があっても決してくじけず、百折不撓（ひゃくせつふとう）に勝利を目指していった。

■公式練習走行



1日（土）10時30分から開始された公式練習走行は、気温31度/路面温度44度の晴れ。最初の60分間の混走セッションでは路面の安定を7分ほど待ってから、サッシャがミディアム系ドライタイヤを装着してクルマとタイヤのチェックを行い、6周目に1分30秒476でその時点で9番手タイム。クルマについて各コーナーでの挙動に改善したい点があるとサッシャがコメント。少しのセット調整の後にサッシャが5周走行して、関口が13周目からタイヤはそのままで決勝へ向けたロングラン評価メニューを実施。そのまま2回のFCY速度確認テストを挟みながらペース良く、関口が決勝へ向けたデータを取得した。混走セッションはトータル32周を走り込み、サッシャが6周目にマークした1分30秒476のタイムで12番手となった。

10分間のGT500単独セッションでは気温34度/路面温度54度と、かなり上昇したコンディション。関口が新品のミディアム系ドライタイヤを装着して予選のアタックシミュレーションを6周にわたって実施。5周目アタックのターゲットとして丁寧にタイヤを温めていった。5周目アタックモードに入り、セクター1を22秒4、セクター2を27秒7、セクター3を39秒7と、各セクターで車両の軽い上位タイム勢に先行を許すも、まずまずのタイムで駆け抜けていく関口。1分29秒929で9番手タイムを計時した。続いて、12時10分から行われたサーキットサファリでは再び決勝を見据えたプログラムでサッシャが8周ほど走行。午前中のセッションはサクセスウェイトなりのタイムで、クルマのフィーリング自体は良好で終了した。

■公式予選

■Q1：サッシャがQ1で僅差で13番手タイム



1日（土）14時53分から開始されたQ1は明るい曇りで気温33度/路面温度48度と少し下がり始めた中、ミディアム系ドライタイヤを装着して1分半ほど待ってからピットを出たサッシャは、5周目をアタックのターゲットとし、早めのラップからタイヤの芯までしっかりタイヤを温めるウォームアップを4周実施し、予定通り5周目にアタックを開始。セクター1でトップからコンマ1秒落ちの22秒1、続くセクター2で予想より若干遅れてしまい27秒2、セクター3でも遅れを取ってしまい38秒9と、この時点で8番手に。クルマの状態はフィーリングも良いのだが、サクセスウェイトを加味しても順位が伴わないという状況が改善できずで、Q1で1分28秒380の13番手の記録となった。Q1突破ラインにはコンマ2秒強ほど足りずに僅差でQ2進出を逃す結果となった。決勝へ向けては後方から巻き返しを狙うべく、現状分析と改善を図り、戦略で前に出られるように自らの限界を超えて挑み続け、ここからの挽回を図ることとなった。



■決勝

■ウォームアップ走行

2日（日）12時から20分間のウォームアップ走行は、走行前の一時的な降雨により路面が濡れ、気温32度/路面温度35度のコンディション。最初に関口がウェットタイヤの皮むきなどで5周走行。路面がドライとなりサッシャが6周目から最後まで走行し、トータルでは10周を走行して、サッシャが8周目にマークした1分31秒353の13番手で決勝への準備を整えた。

■決勝レース

第１スティント：関口がスティント後半にギャップを削る好ペース



2日（日）曇り空から一転、スタート直前の降雨により再び路面がウェットに。13時30分の決勝スタート時点は気温32度/路面温度38度。スタート後、直ぐに路面は乾くと予想しグリッドでドライタイヤ装着を選択。セーフティカー(SC)スタートとなり、ウェットパッチが残る滑りやすい状況でSC解除直後の5周目に他車の激しいクラッシュによる赤旗中断という衝撃の幕開けとなった。14時15分にSC先導で再開され、9周を終えてグリーンフラッグとなり、10周目からの再々スタート後は関口が、序盤は虎視眈々と前車に迫りながらチャンスを伺う走り。好ペースで周回を重ね、スティント後半にはペースアップし、勝負時とプッシュを続ける関口は前とのギャップを詰めていった。他車がピットインを始める中で様々な状況を見ながらピットインを遅らせるオーバーカット戦略を敢行。32周を終えてGT500クラス車両の最後となった中で関口をピットに呼び戻した。

第2スティント：サッシャが奮闘の走りで貴重なポイントを獲得

ピットインを遅らせたオーバーカット、定評の素早く短いピットワークでコースに復帰した際には5位の位置に合流。アウトラップのため、タイヤが温まった先にピットインした組に一旦は抜かれはしたが、終盤にチャンスが来ると信じて食い下がっていく8位のサッシャ。非常に安定したペースで前とのギャップをどんどんと削っていき、終盤は4位から連なる集団の中で前を追い立てる展開へ持ち込む奮闘を見せた。ワンパックで連なる一進一退の攻防が続いていき期待が高まる中、何度か前走車にチャージをかけるが、あと一歩というところで仕留めることはかなわずに惜しくもチェッカー。結果、スタートから5つ順位を上げる8位フィニッシュで貴重なポイントを獲得した。



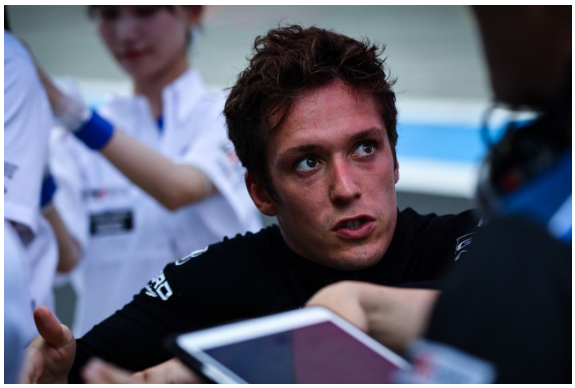
ドライバーポイントは3点（計17点）を獲得、チームポイントは6点（計26点）を獲得し、ともにランキング5位となった。次戦は8月22日（土）・23日（日）に鈴鹿サーキットにて開催される。

■関口　雄飛



「このレースウィークは、クルマのバランスは良かったのですが、うまく順位に結びつきませんでした。決勝は波乱のスタートで混乱に巻き込まれることなく、燃料が軽くなったスティント終盤からペース良く走れ、前が空くとペースを上げられました。厳しい展開でしたが何とかポイントを獲得できてランキング5位と1つあげられたことはよかったです。次の鈴鹿ですが、今年のこれまでのデータや傾向を読んで対策を進めて、大きなポイントを得られるようにしたいと考えます。引き続きの温かい御声援よろしくお願い申し上げます」

■サッシャ・フェネストラズ



「クルマのフィーリングは最初からそんなに悪くなかったけど、昨年から続く予選順位を改善する課題は叶わずに残念だった。決勝での速さは維持できてるし、今回もピットワークが早くて助かったね。レース終盤に前に追いつくことはできたけど抜けずに悔しい。でも8位フィニッシュで貴重なポイントを取れたことはうれしいね。我々のクルマは進歩しているけど、ランキング上位陣に追いつくには更にハードワークが必要。次の鈴鹿は34kgウェイトを積んでのレースになるけど、ガンバリマショウ！チームの鈴鹿ファンミーティングも楽しみだね」

■監督　脇阪　寿一



「週末を通して、持ち込みの状態からクルマのドライバーフィーリングは良いものの順位に結びつかない状況でした。決勝は、その中でドライバー2人とチームの頑張りで、難しいレースを前向きに取り組んで何とか貴重なポイントを持って帰れることができたのは良かったです。次の鈴鹿は、今回得られたヒントと、これまでのドライバーフィーリングとクルマの状況の差異をしっかり分析して組み立て準備したいと思います。引き続き、熱い御声援をどうぞよろしくお願いします！」

■Qualifying Result

Pos.	No.	Car	Driver	Best Time	SW
1	8	ARTA MUGEN HRC PRELUDE-GT	太田　格之進／大津　弘樹	* 1'26.776	0
2	100	STANLEY HRC PRELUDE-GT	山本　尚貴／牧野　任祐	* 1'27.078	14
3	17	Astemo HRC PRELUDE-GT	塚越　広大／野村　勇斗	* 1'27.325	6
13	39	DENSO KOBELCO SARD GR Supra	関口　雄飛／S.フェネストラズ	1'28.380	28

天候：曇り時々晴れ、コース：ドライ、Timeの*はQ2ベスト

■Race Result

Pos.	No.	Car	Driver	Time/Diff	Laps
1	100	STANLEY HRC PRELUDE-GT	山本　尚貴／牧野　任祐	2:23'36.345	66
2	8	ARTA MUGEN HRC PRELUDE-GT	太田　格之進／大津　弘樹	+0.662	66
3	37	Deloitte TOM'S GR Supra	笹原　右京／J.アレジ	+1.478	66
8	39	DENSO KOBELCO SARD GR Supra	関口　雄飛／S.フェネストラズ	+24.371	66

天候：雨のち曇り時々晴れ、コース：ウェット/ドライ、4.563km×66Laps

■Drivers Ranking

Pos.	No.	Driver	Total
1	36	坪井／山下	48
2	14	福住／大嶋	28
3	100	山本／牧野	27
5	39	関口／S.フェネストラズ	17

Point standings after Rd.4

■Team Ranking

Pos.	No.	Team	Total
1	36	TGR TEAM au TOM'S	57
2	100	STANLEY TEAM KUNIMITSU	36
3	14	TGR TEAM ENEOS ROOKIE	36
5	39	TGR TEAM SARD	26

Point standings after Rd.4

■Partners

■情報参照先

●サード公式ウェブサイト　：https://www.sard.co.jp

X　Facebook　Insta　threads　YouTube　TikTok

●SUPER GT　：https://supergt.net/jp

■本リリースに関するお問い合わせ先：チーム広報担当：宮本　e-mail: media@sard.co.jp

株式会社 サード
www.sard.co.jp
〒473-0914　愛知県豊田市若林東町上外根50
TEL. 0565-53-1166　FAX. 0565-52-5482